

明豊中学校の学習と評価について

学びの変化

○主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの授業改善

子供たちの「学び」そのものが、「アクティブ」で意味あるものとなっているか
という視点から授業をよりよくしていくこと

例えば…

- ・一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業
- ・見通しをもって、粘り強く取り組む力が身につく授業
- ・周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業
- ・自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業

学習指導要領とは？

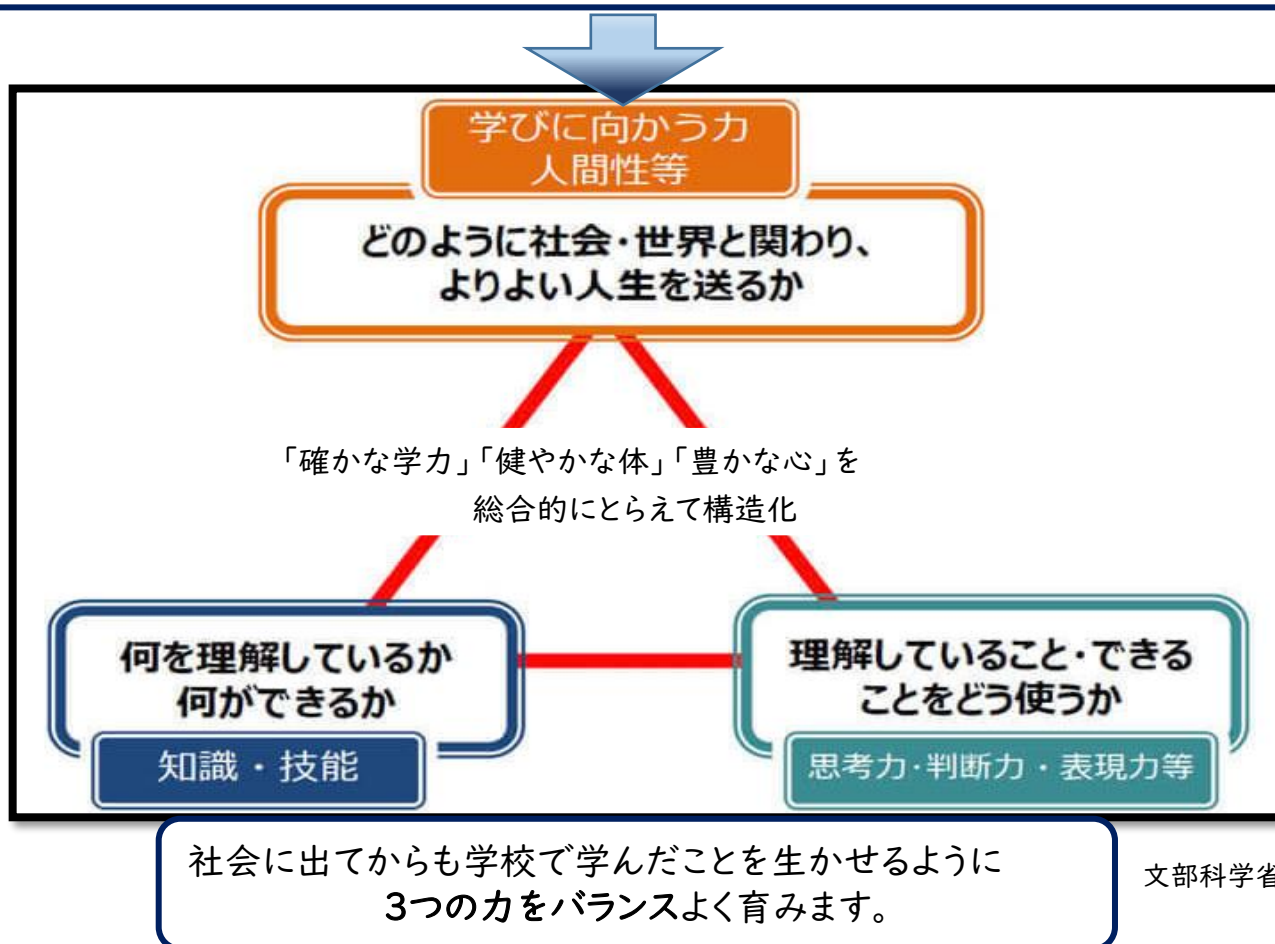
全国どこの学校でも一定の教育水準が保てるように、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準のこと。およそ、10年に一度改定されている。

○「カリキュラム・マネジメント」の確立

子供たちの姿や地域の実情等を踏まえて、教育課程の質の向上を図っていくことを目指すもの

例えば…

- ・複数の教科の教師が連携を図りながら授業をつくる
- ・学校教育の効果を常に検証して改善する
- ・地域と連携し、よりよい学校教育を目指す



成績の付け方

教 科	各観点の評価材料			3 観点の重み(%)		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度	知技	思判表	態度
国 語	- 定期考査 - 小テスト - 書写	- 定期考査 - スピーチ - 聴き取り - 話し合い活動 - 朗読 - 作文 - ワーク・ワークシート	- 定期考査 - 授業に取り組む姿勢 - 教材の目標に対する自己評価 - 提出物の状況 - ノート・ワークシート - 古文等の暗誦	33	34	33
社 会	- 定期考査 - 小テスト - 単元テスト	- 定期考査 - 小テスト - 単元テスト - 小レポート	- ノートの内容 - 授業に取り組む姿勢 - 授業ノート - 提出物の内容	34	33	33
数 学	- 定期考査 - 小テスト - 単元テスト	- 定期考査 - 小テスト - 単元テスト	- 授業ノート、ワークの内容 - 授業に取り組む姿勢 - 発言内容	34	33	33
理 科	- 定期考査 - 小テスト - 実験・観察レポート	- 定期考査 - 実験・観察レポート	- ノート - ワーク - 振り返りワークシート - 授業に取り組む姿勢	34	33	33
音 楽	- 定期考査 - 実技テスト	- ワークシート - 定期考査 - ワークの内容	- ワークシート - ハンコシート - 授業に取り組む姿勢	40	30	30
美 術	- 定期考査 - 小テスト - 作品	- 定期考査 - アイディアシート - 鑑賞シート	- 評価シート - 振り返りシート - 授業に取り組む姿勢	40	30	30
保健体育	- 定期考査 - スキルテスト	- 定期考査 - ノート - カード	- 出席状況 - 忘れ物 - 授業に取り組む姿勢	40	30	30
技術・家庭	- 定期考査 - ノート - 製品・作品	- 定期考査 - ノート - プリント - 自主研究	- 学習カード - 授業に取り組む姿勢 - 自主研究	40	30	30
外国語	- 定期考査 - 小テスト - スピーキングテスト	- 定期考査 - 発表 - 小テスト - リスニングテスト - ワークシート	- ノート - ワーク - ワークシート - 活動に取り組む姿勢	35	35	30

評価方法

評価は、テスト、実技テスト・作品・ノート・提出物・発言・行動観察など学習のすべての場面で行われています。各教科の観点別学習状況の評価の趣旨に基づいて設定した、観点別評価基準に照らして、その達成状況を**3観点ごとに3段階**で評価します。必修教科の評定については、各教科の観点別学習状況の評価を総合的に評価して、5段階で表します。

達成率	観点別学習状況の評価		⇒	評 定		達成率
	十分満足できる	A		特に高い程度のもの	5	
	おおむね満足できる	B		十分に満足できるもの	4	
	努力を要する	C		おおむね満足できるもの	3	
80%				努力を要するもの	2	50%
50%				一層の努力を要するもの	1	20%

各学年、各学期の成績の付け方

	1 学期	2 学期	3 学期
第 1 学年	単独	単独	1、2、3 学期の総合
第 2 学年	単独	単独	1、2、3 学期の総合
第 3 学年	単独	1、2 学期の総合	1、2、3 学期の総合

評価評定の出し方

例！ 知識・技能40%、思考・判断・表現 30%、態度30%の場合

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度	
得点（個人の素点の合計）	80	15	55	
満点（素点の合計）	120	80	100	
達成率	67%	19%	55%	
観点別評価	B	C	B	
評 定	$67 \times 0.4 = 26.8$	$19 \times 0.3 = 5.7$	$55 \times 0.3 = 16.5$	$26.8 + 5.7 + 16.5 = 49 \Rightarrow 2$

よくある質問

Q1:なぜ評価・評定がつけられているのでしょうか。

A1:評価・評定を見ると、どの教科のどの観点で力が十分に身についていないかを確認することができます。評価・評定は確認するだけでなく、それを参考にして学習することに大きな意味があります。中学校3年間で学び残しが無いように取り組んでいきましょう。

Q2:通知表はどのように活用すればいいのでしょうか。

A2:それぞれの教科でA、B、Cの観点別評価と5段階の評定が提示されます。「評定」の数字だけでなく、どの教科のどこに課題があるのかを見つけ、自分に足りていない部分を補うように学習を進めていきましょう。自分の弱点を知ることが、成績アップへの近道です。さらに詳しく自分に足りないところを知りたい場合は、各教科の先生に直接聞いてみましょう。

Q3:2年前から評価の観点がすべての教科で「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つになりましたが、これにはどのような意味があるのでしょうか。

A3:これからの変化の激しい社会を生き抜くために、身につけるべき力とその評価の観点が整理されました。昨年度までは各教科の観点は異なっていましたが、全ての教科で「生きて働く知識及び技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の育成」を目指しており、それに対応した評価の観点となりました。

特に、「主体的に学習に取り組む態度」については、学習を自分で工夫したり、様々な方法を試したり、あきらめずに粘り強く努力したりすることを評価します。そのためには学習を振り返ったり、見直しをもって学習をしたりすることが必要になります。

Q4:3つの観点の評価が「AAB」でも、教科によって評定が「4」のものと「3」のものがあるのはなぜですか。

A4:中面の「各教科の観点別学習状況の評価について」を見てもらうと、各教科により3観点の重みが違います。そのために、同じ評価の並びでも、評定が違ってきます。疑問に思ったら、各教科の重みを確認してみましょう。それでも、分からない場合は、各教科の先生に聞いてみましょう。

Q5:高校入試の時に必要な成績は、3年生の2学期に提示される成績(内申)ですか。

A5:都立高校の調査書に記載される成績は、3年生の2学期です。しかし、私立高校の併願優遇(「それぞれの学校が設ける基準をクリアしていれば入試に加点される」という私立受験の制度のひとつ)を利用する際には、1・2年生の成績(3学期配布)や出席状況(欠席・遅刻・早退日数など)も問われます。3年生になって急に成績は上がりません。1・2年生からしっかり基礎学力を身につけましょう。

推薦基準について

「推薦」による受験・受験は、「推薦」されるにふさわしい人物でなければなりません。

「推薦」に値する生徒として高校へ送り出せるかどうかは、校長をはじめ全校職員の共通理解のもとに、下記のような方針で進めていきます。

(1) 推薦にあたっての方針

- ① 推薦に値する人物であるかの判断は本校の全教職員で検討し、最終判断は校長が行う。
- ② 第一志望であることが絶対条件で、「誓約書」により保護者や生徒と確認を取った後は、志望校の変更はできない。

(2) 推薦の範囲

- ① 都立高等学校の「推薦による選抜」(文化スポーツ等特別推薦を含む)
- ② 私立高等学校の「推薦入試」で(A推薦)(第一志望推薦)(スポーツ推薦)等をいう。

(3) 明豊中学校としての推薦の基準(以下の項目を満たすこと)

- ① 志望の動機・理由・適性
 - (ア) 本人、保護者とも推薦受験を希望していること。
 - (イ) 本人の進路希望先への志望動機、目的意識が明確であり、その理由が適切であること。
 - (ウ) 本人が当該高校をすでに見学し、本人・保護者とも教育方針をよく理解していること。
 - (エ) 当該高校の教育方針の下、3年間堅実で充実した生活を送り、就学・卒業が見込まれる生徒であること。
 - (オ) 本校在学中を通して、学校納付金が遅滞なく行われ、進学後も継続されることが期待できること。
- ② 行動の状況
 - (ア) 人物が優れていること。
 - (イ) 出席の状況が良好であること。(私立:出席状況の基準を満たすこと)
 - (ウ) 欠席・遅刻・早退等の理由が明確であること。
 - (エ) 委員会、係、当番等の活動を責任を持って行っていること。
 - (オ) 「明豊中学校の生徒心得」をよく理解し、継続的に守っていること。
 - (カ) 家庭や地域等でもマナーやルールを守っていること。
- ③ 学習状況
 - (ア) 学習成績が良好であること。(私立:成績基準を満たすこと)
 - (イ) 学習意欲が旺盛で授業に対して真面目に取り組んでいること。
 - (ウ) 当該高校に関係の深い授業に興味・関心があること。

(4) 確認事項

- ① 推薦受験は、他校への出願はもちろんのこと、入学辞退もできません。
※受験する学校によって様々な推薦形態があるので、受験時によく確認する事がが必要です。
- ② 推薦受験は12月の進路相談期間中の「誓約書」の提出をもって正式に受け付けます。
- ③ 私立高校の(併願優遇)は推薦ではありませんが、推薦と同様に、事前に中学と高校の進路相談を行うものであるため、推薦と同様の基準を満たしていることを望みます。

※「推薦」は、中学校と高等学校との信頼関係に関わる大切な約束で、慎重に行われます。
推薦で合格が決定した生徒は、合格決定後も推薦にふさわしい行動を心がけなくてはなりません。